

## 令和の時代の PC 工学会の役割



井上 晋\*

元号が令和となって初めての新年を迎えました。

本工学会の前身であるプレストレストコンクリート技術協会は、1958年2月にプレストレストコンクリート国際連盟（FIP）に日本を代表して入会する条件で創立され、1960年3月29日に社団法人として建設大臣の許可を得て設立されました。以降、プレストレストコンクリート（PC）の普及・発展を目的にさまざまな活動を展開してきましたが、2012年4月1日には公益社団法人「プレストレストコンクリート工学会」へと移行し、2020年3月に設立60周年を迎えます。

PCの創生期を振り返りますと、鉄道マクラギの製造に始まり、1951年に日本最初のPC道路橋「長生橋」が完成し、1959年には日本最初の片持ち張出し架設工法が採用された「嵐山橋」が完成しました。PC橋は長大スパン化に向けて飛躍的に発展を遂げ、橋梁のみならず、建築、容器、防災、港湾施設、舗装などあらゆる分野にPC技術の適用が試みられる時代でもありました。創成期からのPC技術とそれに関わった技術者の高い志と熱意を後世に伝承していくことが本工学会の重要な役割と考え、設立60周年を機に、ホームページに「PCアーカイブス」を開設しました。ぜひご覧いただければ幸いです。

さて、日本では地震、豪雨災害など大規模自然災害が近年しばしば発生し、安心・安全な社会基盤施設の整備が喫緊の課題となっています。自然災害に備えた防災・減災対策、就労人口の減少に対する生産性向上対策、膨大な社会基盤施設の維持管理と更新に対応する新しい技術の開発など、現状の社会が有するさまざまな課題に対して、PC技術やプレキャスト技術が果たすべき役割はきわめて大きく、合理的な構造形式や先進技術を活用しながら適用拡大を発信していかなければなりません。

本工学会の主な活動は、会誌「プレストレストコンクリート」の発行、PCの発展に関するシンポジウムの開催、技術規準・指針などの発行、PC技術講習会、

ならびにPC技士とコンクリート構造診断士の資格認定事業がありますが、令和の新しい時代を迎え、コンクリート構造物にもこれまで以上に多種多様な性能が要求されるようになっていきます。その要求に応えるためにも、PC技術を伝承・発展させていく人材の育成が本工学会の役割であると考えています。とくに、本工学会の資格は、国土交通省登録資格として点検、診断業務に活躍が期待され、コンクリート構造物の安全性の確保と長寿命化に貢献していくものと自負しています。引き続き両資格の取得推進、更新登録にご理解とご支援をお願い申し上げます。

また、本工学会の主な活動の一つである「PCの発展に関するシンポジウム」は、昨年は設立60周年記念大会として名古屋で開催いたしました。関係各位のご協力により、参加者数は過去最高の813名を数え、PC技術への関心と期待が高まっていることを実感できる結果となりました。しかし、本工学会のさらなる活性化のためには、学生、若手技術者や研究者が参加しやすい場を提供し、PCの魅力、素晴らしさを知っていただく必要があると考えています。PC技術講習会や（一社）プレストレスト・コンクリート建設業協会が展開されている高等教育機関へのPC技術専門家派遣事業とのさらなる連携などを通じて会員の増加に努めていく所存です。

本工学会は、2017年に「PCサステナビリティ宣言」を公表しました。また、現在fib Model Code 2020の策定に向けて作業が進められており、そのなかでもサステナビリティに関しては詳細な記述がされると聞いています。2019年1月には本工学会理事の春日昭夫氏がfib副会長に就任され、本工学会が国際的に果たす役割もますます大きくなるものと思います。持続可能な社会に向けて貢献できるよう努めてまいりますので、今後とも関係各位のさらなるご支援とご指導の程をお願い申し上げます。

\* Susumu INOUE：本工学会会長  
大阪工業大学 工学部 都市デザイン工学科 教授